

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-01-02

| | | | | | | | |
|-----|-------------------|------|----|-----|--------------|-----|----|
| 事業名 | 地域福祉推進事業費補助金に係る事務 | 事業番号 | 02 | 課係名 | 福祉・援護課 地域福祉班 | 係番号 | 01 |
|-----|-------------------|------|----|-----|--------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 要援護者、福祉サービス利用者、地域住民</p> <p>(2) 現状 少子高齢化が進展、家庭機能が変化するなかで、福祉ニーズは増大し多様化している。障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが住みなれた地域で安心して生活できるよう、地域社会を基盤とした地域福祉の推進がより重要となっている。</p> <p>(3) 方法 県社協、市町村が行う地域福祉推進に要する経費を補助する。 社会福祉活動促進費補助金（福祉活動指導員設置費、ボランティア振興事業、地域福祉権利擁護事業、地域福祉ネットワーク事業、運営適正化委員会設置運営事業） 社会福祉協議会県費補助金（事務職員等設置費、ゆいまーのまちづくり事業、福祉施設経営指導事業）</p> <p>(4) 目標 個人が人としての尊厳を持ち、慣れた地域で安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指す。</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 助成, 行政 (2) 国庫, 単独 国庫補助率: (1/2)</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 社会福祉法第6条により、国・地方公共団体の福祉サービスの提供体制の確保等に関する責務が唱われている。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 県内の地域福祉推進の基盤整備は県の責務である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------|---------|---------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|-----|------|------|------|------|
| <p>7. 最近4年間の事業費等の推移 (単位: 千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>268,343</td> <td>262,023</td> <td>223,611</td> <td>215,132</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名: 地域福祉推進事業費</p> | | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 268,343 | 262,023 | 223,611 | 215,132 | 人工数 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | 0.60 |
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 268,343 | 262,023 | 223,611 | 215,132 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 社会福祉協議会は、地域住民が主体となって、公私関係者の連携によって、地域に応じた社会福祉の増進を図ることを目的としている。民間社会福祉活動の中核的推進組織である社協が実施する地域福祉推進関係事業費等を補助することにより、効率的・効果的に民間社会福祉活動の活性化が図られ、地域福祉の一層の充実が促進されるため。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期: 昭和47年, 終期:</p> <p>4. 自治上の区分: 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|---|--|
| <p>(1) 何を (手段・活動指標) ・県社協が行う地域福祉推進事業支援 ・地域福祉ネットワーク事業実施 ・ゆいまーのまちづくり事業実施</p> <p>(2) その結果、何が (成果指標) 地域のセーフティネット機能の強化</p> | <p>8. 過去3年間 (H17まで) の実績 8 - (1) どこまでやったのか (手段・活動指標) ボランティア把握数: 1,682 団体 (75,548人)、4,260 個人 地域福祉権利擁護事業契約数: 422 件 (うち、解約115件) 地域福祉ネットワーク事業等実施箇所数: ・地域福祉ネットワーク事業 21 市町村 (H17年度新規指定: 1): 前ふれあいのまちづくり事業実施分含む ・ゆいまーのまちづくり事業 7 社協 (H17年度新規指定: 0)</p> <p>8 - (2) どの水準まで向上したか (成果指標) 民間福祉活動の推進、福祉サービスの質の向上並びに福祉サービス利用者の権利の擁護に寄与している。</p> | <p>9. 今後3年間 (H20まで) の戦略 9 - (1) どこまでやる予定なのか (手段・活動指標) 計画的な事業展開を推進しながら継続実施する。 ・ゆいまーのまちづくり事業は、H19 終期</p> <p>9 - (2) どの水準まで向上する見込みなのか (成果指標) 誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる福祉のまちづくりに寄与する。</p> |
|--|---|--|

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------|-----|-----------|------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 地域福祉班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | 担当者 地域福祉班 | | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2169 |
| 作成年月日 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-01-02 | | | | |
| 事務事業名 | 地域福祉推進事業費補助金に係る事務 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 091004004 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 地域福祉推進事業費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|--------------------|-----------|-----------|-----------|---------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | ボランティア把握数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 地域福祉ネットワーク事業実施市町村数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | 人 | 63,582.00 | 73,933.00 | 79,808.00 | / | 0.00 |
| 成果指標A' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 活動指標B | 箇所 | 26.00 | 26.00 | 21.00 | / | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 268,343 | 262,023 | 223,611 | 215,132 | / |
| | 人工数D | 0.60 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | / |
| | 人件費E | 3,978 | 3,864 | 3,864 | 3,852 | / |
| | 合計C+E=F | 272,321 | 265,887 | 227,475 | 218,984 | / |

| | |
|------------|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| | (1) 県民満足度の度合い 判定 B (判定内容) B. 概ね満足している。 |
| 判定根拠 | ボランティア団体登録数は1,682団体、79,808人となっており、各種福祉ニーズに応えるための基盤整備が図られつつある。また、市町村社協を中心とする地域福祉ネットワークの構築が図られ、ボランティア活動と併せて地域を主体とする福祉活動の活性化が図られている。 福祉施設におけるサービス向上については、県社会福祉協議会において苦情解決事業の実施や社会福祉法人の経営支援事業を実施し、サービスの向上に努めている。 |
| | (2) 県民ニーズの動向 判定 A (判定内容) A. 増加傾向 |
| 判定根拠 | 地域における福祉ニーズが多様化するなか、地域福祉活動の充実・強化が求められており、同事業による市町村社協を中心とした各種相談事業の実施や住民参加による福祉活動の支援、また住民組織、保健、福祉事業者、行政などのネットワークの構築は県民ニーズに沿った事業である。 福祉施設サービスの充実・強化についても、利用形態が措置から利用へと移行するなか、苦情解決事業や経営支援事業をとってサービスの向上に努めることは県民のニーズに即したものである。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--------------------|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 本県におけるボランティア数の人口比率は5.9%であり、全国平均(6.1%)並みとなっている。 | |

| | | |
|---|--|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施がさだめられている。 | | |
| 判定 根拠 | 社会福祉法第6条において、福祉サービスの提供体制の確保等については、国及び地方公共団体の責務とされており、地域福祉推進に係る基盤整備を目的とした本事業は、官が実施すべきものである。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 福祉の基盤整備は、国及び地方公共団体の責務であり、同事業は国、県、市町村の応分負担による補助事業である。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県が直接実施することが妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 民間社会福祉活動の推進母体である県社協又は市町村を実施主体としているが、県内の地域福祉の基盤整備は県の責務であり、県社協又は市町村が行う事業や運営に要する経費を補助することで、行政と民間が協働した地域福祉の基盤整備を図ることができる。 | |

| | | |
|-------------------------------|---|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 県社会福祉協議会の組織体制や事業の実施を支援するとともに、ボランティア活動の振興、地域福祉ネットワークの形成及び社会福祉施設のサービス向上を目的としたもので類似の事業はない。 | |

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 県社会福祉協議会は民間社会福祉活動の中核的存在であり、市町村社会福祉協議会においても地域福祉推進の中心的役割を担っていることから、当該事業の対象として妥当であると考えられる。 | |

| | | |
|----------------------|---|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 B |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) B. 大きな影響を与える。 | | |
| 判定 根拠 | 地域福祉活動の基盤整備事業として、市町村社会福祉協議会がボランティアの養成、活動拠点整備、総合相談事業による福祉ニーズの把握から住民参加の福祉活動の支援を行うと同時に、地域福祉ネットワークの形成が図られることは、地域福祉サービスの充実・強化に大きく貢献している。 また、当該事業による社会福祉法人の経営指導、支援の実施は、質の高い福祉サービスの提供を促進する上で大きな役割を果たしている。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|---|--------|
| 8. 対費用効果 | | 判定 A 1 |
| (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。 | | |
| 判定根拠 | 費用はほぼ横ばいであるが、市町村社協を中心とする地域福祉サービスの提供基盤（ボランティア養成、活動拠点整備、地域福祉コミュニティの形成）が整備されつつある。また、社会福祉施設における福祉サービスの向上に資する為、県社会福祉協議会が実施する福祉サービスの苦情解決事業、施設の経営支援、地域福祉権利擁護事業等に補助することにより、民間福祉活動の推進、福祉サービス利用者の権利の擁護に寄与している。 | |
| (2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。 | | |
| 判定根拠 | 費用はほぼ横ばいであるが、市町村社協を中心とする地域福祉サービスの提供基盤（ボランティア養成、活動拠点整備、地域福祉コミュニティの形成）が整備されつつある。また、福祉サービスの質の向上に資する為、県社会福祉協議会において福祉サービスの苦情解決事業（受付171件）に取り組むとともに、施設の経営支援事業により相談、指導を行った。地域福祉権利擁護事業による福祉サービスの利用援助、金銭等の預かりサービスについてもH17年度は108件の契約を締結している。 | |

| | | |
|------------------|---|------|
| 9. 県の負担割合 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 市町村における地域福祉基盤整備については、国、県、市町村の応分負担により補助事業を実施している。また、福祉サービスの質の向上については、県社協が実施する苦情解決事業に対し、国、県の負担で事業を実施しており、それぞれの役割に応じた費用負担となっている。 | |

| | | |
|--------------------------------|---------------------|------|
| 10. O A化の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。 | | |
| 判定根拠 | 補助事業であり、O A化になじまない。 | |

| | | | | |
|--------------|----------------|---------|--------|---|
| 11. 判定結果 | | | | |
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B | |
| | | (2) ニーズ | A | |
| | 2. サービス水準の他県比較 | | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 | A |
| | (2) 県市町村 | | B | |
| 4. 民間委託の可能性 | | | B | |
| 5. 事務事業の選択 | | | A | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | | A |
| | 7. 貢献度 | | | B |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 1 | |
| | | (2) 対結果 | A 1 | |
| | 9. 県の負担割合 | | | A |
| 10. O A化の可能性 | | | A | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 8 | 5 | | | |

| | | |
|--------------------------------------|---|-------------------|
| 12. 所管課の総合評価 | | 総合評価 |
| | | 評価区分 B 具体的方向性 1 |
| (評価区分) : B. 現状維持 | | |
| (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。 | | |
| 判定根拠 | 少子、高齢化が進展するなかで地域福祉に対するニーズは高まっており、当該事業による地域福祉活動の基盤整備はますます重要なものとなっている。また、福祉サービスの利用形態が措置から利用制度へと移行するなか、利用者の権利を擁護するとともに、社会福祉施設等におけるサービスの質の向上を図ることが行政の課題である。その為に、利用者からの福祉サービスに関する相談及び苦情解決を行うと同時に、社会福祉施設の経営支援・指導を継続して実施する必要がある。 | |

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-01-05

| | | | | | | | |
|-----|----------------|------|----|-----|--------------|-----|----|
| 事業名 | 沖縄県社会福祉事業団関係事務 | 事業番号 | 05 | 課係名 | 福祉・援護課 地域福祉班 | 係番号 | 01 |
|-----|----------------|------|----|-----|--------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 県立社会福祉施設の民営化</p> <p>(2) 現状 平成18年度より、社会福祉法人沖縄県社会福祉事業団に県立社会福祉施設(12施設)の経営を移譲した。 移譲にあたり、財産の取扱については、土地は有償譲渡、建物・工作物等及び備品は無償譲渡の方針だが、譲渡時期については事業団の経営計画及び事業実施状況を勘案して決定す</p> <p>(3) 方法 事業団の経営計画策定支援</p> <p>(4) 目標 1. 入所者処遇の安定確保と向上のため、事業団経営が早期に安定するよう支援する。 2. 県有財産を事業団へ譲渡し、社会福祉法人としての基盤を強化する。</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 県立であった社会福祉施設の経営を移譲したため。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 県立であった社会福祉施設の経営を移譲したため。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位:千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>287,197</td> <td>264,027</td> <td>105,798</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.48</td> <td>0.58</td> <td>0.58</td> <td>0.50</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名: 社会福祉事業団本部運営費(17年度終了)</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 287,197 | 264,027 | 105,798 | 0 | 人工数 | 0.48 | 0.58 | 0.58 | 0.50 |
|---|---|---------|---------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 287,197 | 264,027 | 105,798 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.48 | 0.58 | 0.58 | 0.50 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 事業団については、設立以来これまで県委託事業による管理運営のみを行ってきたが、平成18年度からは制度収入内での自主運営となった。 県としては、県立施設であったというこれまでの経緯から、移譲施設の安定確保に責任がある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期: 昭和18年度, 終期: 未定</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4. 自治上の区分: 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 12 県立社会福祉施設の民営化</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績 8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) ・12 県立社会福祉施設の譲渡先を事業団に特定し、財産の取扱については、18年度は無償貸付とした。 ・早期退職希望者への支援(勤奨退職分補助)</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略 9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) ・事業団の経営計画策定及び事業実施を支援し、法人経営の健全化を図る。 ・県有財産を事業団へ譲渡し、社会福祉法人としての基盤を強化する。</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) 入所者処遇の安定的継続</p> | <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) 事業団が引き続き施設を運営することにより、入所者処遇は安定的に継続している。</p> | <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 事業団経営の健全化及び安定化が、入所者処遇の安定・向上につながる。</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 地域福祉班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | 担当者 地域福祉班 | | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|----|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-01-05 | | | | |
| 事務事業名 | 沖縄県社会福祉事業団関係事務 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 091004002 | 事業区分 | B2 | | |
| 歳出事業名(1) | 社会福祉事業団本部運営費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|--------------------|------------|------------|------------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 経営計画の策定支援及び経営安定化支援 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 事業団経営の健全化及び安定化 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 事業団への県有財産の譲渡 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 事業団の基盤強化 | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標A' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 287,197 | 264,027 | 105,798 | 0 | |
| | 人工数D | 0.48 | 0.58 | 0.58 | 0.50 | |
| | 人件費E | 3,182.40 | 3,735.20 | 3,735.20 | 3,210 | |
| | 合計C+E=F | 290,379.40 | 267,762.20 | 109,533.20 | 3,210 | |

| | |
|---|---|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 A | |
| (判定内容) A: 満足している。 | |
| 判定根拠 | 事業団は、県立社会福祉施設の管理運営を約30年間に亘って行ってきた。事業団への12施設の経営移譲により、入所者処遇は安定的に継続されている。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 A | |
| (判定内容) A: 増加傾向 | |
| 判定根拠 | 12県立社会福祉施設については、今般県立を廃止して民営化した。高齢者の増加、児童虐待・DV対策、地域福祉推進拠点づくりなど、社会福祉施設としてのニーズは高い。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 他県においても、従前の管理者である各社会福祉事業団については、経営移譲、或いは指定管理者制度への移行が行われている。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 D |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) D. 民間が実施すべき事業である。 | | |
| 判定 根拠 | 県立施設について経営を移譲したが、土地・建物等の財産の譲渡については事業団の経営計画及び事業実施状況を助案して決定することとしている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | 元県立施設の民営化である。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | 平成18年度から民営化した。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 類似する事務事業は他になし。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 12施設の運営実績のある社会福祉法人は、県内では沖縄県社会福祉事業団の他にはない。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 事業団経営の安定化が、入所者処遇の安定確保につながる。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|---|----------|
| 8. 対費用効果 | | 判定 A 1 |
| (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。 | | |
| 判定根拠 | 県立を廃止して事業団に経営を移譲し、また事業団自身が制度収入の範囲内で運営していくことにより、今後は施設運営に係る県費持ち出しがなくなる。 また、事業団が12施設の運営を継続することで、入所者処遇が安定的に継続される。 | |
| (2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると | | 判定 A 1 |
| (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。 | | |
| 判定根拠 | 県立を廃止して事業団に経営を移譲し、また事業団自身が制度収入の範囲内での運営していくことにより、今後は施設運営に係る県費持ち出しがなくなる。 また、事業団が12施設の運営を継続することで、入所者処遇が安定的に継続される。 | |

| | | |
|-----------|------------------------|--------|
| 9. 県の負担割合 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定根拠 | 基本的に金銭的支援は行わない方針とされてる。 | |

| | | |
|--------------------------------|-----------------|--------|
| 10. O A化の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。 | | |
| 判定根拠 | 性質上、O A化に該当しない。 | |

| | | | | |
|--------------|----------------|---------|--------|---|
| 11. 判定結果 | | | | |
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | A | |
| | | (2) ニーズ | A | |
| | 2. サービス水準の他県比較 | | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 | D |
| | (2) 県市町村 | | - | |
| 4. 民間委託の可能性 | | - | | |
| 5. 事務事業の選択 | | A | | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | A | |
| | 7. 貢献度 | | A | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 1 | |
| | | (2) 対結果 | A 1 | |
| | 9. 県の負担割合 | | - | |
| 10. O A化の可能性 | | A | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 8 | 1 | | 1 | |

| | | |
|--|--|-----------------------|
| 12. 所管課の総合評価 | | 総合評価 |
| | | 評価区分 D 具体的方向性 2 |
| (評価区分) : D. 廃止 | | |
| (具体的方向性) : 2. 民間、市町村等に担ってもらふこと等により県の事業は廃止する。 | | |
| 判定根拠 | 平成18年度から、12県立社会福祉施設については沖縄県社会福祉事業団へ経営を移譲し民営化した。 今後は、当該施設用地・建物等を譲渡して事業団の法人基盤を強化し、経営健全化及び安定化について支援していく。 | |

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-01-11

| | | | | | | | |
|-----|--------|------|----|-----|--------------|-----|----|
| 事業名 | 民生委員事業 | 事業番号 | 11 | 課係名 | 福祉・援護課 地域福祉班 | 係番号 | 01 |
|-----|--------|------|----|-----|--------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 民生委員、市町村、沖縄県社会福祉協議会、一般県民</p> <p>(2) 現状 民生委員は、民生委員法に基づき各市町村に設置されている民間篤志の奉仕者で、社会福祉の増進に努めている。</p> <p>(3) 方法 民生委員への活動費支給、研修実施、県民への民生委員活動の周知、沖縄県社会福祉協議会への補助金及び市町村民生委員推薦会に係る負担金支給等。</p> <p>(4) 目標 民生委員活動の拡充、資質の向上、欠員解消を図り、社会福祉の向上を図る。</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政,助成 (2)単独</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 民生委員法で国、県及び市町村の役割が規定されている。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 民生委員法に県の役割が規定されている。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移 (単位:千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>104,606</td> <td>102,063</td> <td>97,484</td> <td>94,735</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.40</td> <td>0.40</td> <td>0.40</td> <td>0.40</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：民生委員事業費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 104,606 | 102,063 | 97,484 | 94,735 | 人工数 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 |
|---|--|---------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|---------|--------|--------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 104,606 | 102,063 | 97,484 | 94,735 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 民生委員は、地域住民の相談役として、また住民と行政のパイプ役としても多大な協力を得るなど、社会福祉の向上に欠かせない存在であり、事業の充実実施が必要である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期：昭和46年度，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) ・民生委員委嘱活動</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績 8-(1)どこまでやったのか(手段・活動指標) ・県社会福祉審議会 4回 105人推薦 ・推薦会負担金 22市町村 709千円 ・沖縄県社会福祉協議会への補助金 24,195千円</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略 9-(1)どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 引き続き民生委員活動の推進を図る。</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) ・民生委員委嘱数</p> | <p>8-(2)どの水準まで向上したか(成果指標) 民生委員数 平成18.4.1現在 2,127人 相談・支援件数 91,189件 調査・実態把握 30,015件 活動日数 235,118日 訪問回数 200,926回 連絡調整回数 107,234回</p> | <p>9-(2)どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 民生委員定数の充足に向け支援し、また、活動推進を図る。</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 地域福祉班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | 担当者 地域福祉班 | | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|----|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-01-11 | | | | |
| 事務事業名 | 民生委員事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 091007001 | 事業区分 | B2 | | |
| 歳出事業名(1) | 民生委員事業費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | | |
|----------------------|-------|--------|------|------|--|
| 分野別計画 施策体系 コード | 主コード | 999999 | 計画名 | | |
| | | | 政策目標 | | |
| | | | 施策 | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | | |
|------------------|---------|----------|----------|----------|----------|--------|-----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | | 民生委員委嘱活動 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | | 民生委員委嘱数 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | | |
| <指標の推移> | | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標: H20年度 |
| 活動指標A | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標A' | 人 | | 2,074.00 | 2,079.00 | 2,100.00 | | 2,256.00 |
| 活動指標B | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標B' | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 投入資源 (単位:千円) | 予決算額C | | 104,606 | 102,063 | 97,484 | 94,735 | |
| | 人工数D | | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | |
| | 人件費E | | 2,652 | 2,576 | 2,576 | 2,568 | |
| | 合計C+E=F | | 107,258 | 104,639 | 100,060 | 97,303 | |

| | |
|---|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 B | |
| (判定内容) B. 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | 地域住民からの在宅福祉・介護保険・年金・子供の教育・家庭問題まで、様々な相談に応じ、支援を行う民生委員の役割は大きい。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 A | |
| (判定内容) A. 増加傾向 | |
| 判定根拠 | 現在、我が国では、措置制度から支援費制度へ移行する等の福祉サービスの改革が行われるとともに、地域福祉計画の策定に参加するとともに地域住民の福祉の増進を図る地域福祉活動の担い手の一人となることが期待されており、その役割はますます大きくなってきている。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|-----------------------------------|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 民生委員法に基づき、全国に配置されており、その職務内容は全国同一サービスである。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施がさだめられている。 | | |
| 判定 根拠 | 民生委員は、無報酬のボランティアであり、民生委員法によって、県知事の推薦によって厚生労働大臣が委嘱することとされている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で県の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 現在、民生委員法で、市町村民生委員推薦会の推薦に基づき、沖縄県社会福祉審議会の意見を聞いて、県知事が厚生労働大臣に推薦し、大臣が委嘱することとされている。 現行の方法では、最終的に推薦されるまでに時間が掛かることと、候補者の選定に当たっては、知識、能力、人物像、これまでの地域での活動内容等を総合的に判断できるのは市町村段階であることから、県知事若しくは市町村長に委嘱権限を下ろした方がよいものと思われる。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県が直接実施することが、定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 民生委員法で都道府県知事が厚生労働大臣に対して民生委員を推薦するほか、指揮監督、指導訓練及び指導訓練に関する費用負担等の役割が規定されている。 民生委員は、無報酬のボランティアであるが、その役割として、福祉機関や行政の調査等に協力することや守秘義務を持って住民の個人的な話を聞くことから、公的機関が委嘱すべきである。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 公的な性格を持った福祉関係のボランティアは他にない。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 民生委員は、社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場に立って相談に応じ、及び必要な援助を行い、もって社会福祉の増進に努めることとされ、地域住民と行政とのパイプ役となっている。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 定数2,256人に対し平成18年3月31日現在、2,100人となっており委嘱率は93.1%となっている。 全国平均は、平成17年3月31日現在98.7%となっており、引き続き民生委員の推薦を行い、欠員を減らすようにする。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 B
 (判定内容) B. 費用、成果とも上昇傾向

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 民生委員に欠員が生じる場合、他の民生委員がカバーするため、他の民生委員の負担が増すとともに、きめ細かな対応ができなくなるため、欠員を減らすようにする。 |
|----------|---|

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 B
 (判定内容) B. 費用、結果とも上昇傾向

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 地区民生委員協議会への補助を通じて日々の定例会、勉強会等を支援するとともに研修を実施し、民生委員の質の向上を図っている。 |
|----------|--|

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 民生委員事業費の中で大きな割合を占める民生委員活動費及び地区民生委員協議会活動費に対しては、地方交付税措置がされている。 |
|----------|--|

10. O A化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。

| | |
|----------|-----------------|
| 判定 根拠 | O A化するような業務はない。 |
|----------|-----------------|

11. 判定結果

| | | | | |
|--------------|----------------|---------|--------|---|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B | |
| | | (2) ニーズ | A | |
| | 2. サービス水準の他県比較 | | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 | A |
| | (2) 県市町村 | | A | |
| 4. 民間委託の可能性 | | | A | |
| | 5. 事務事業の選択 | | | A |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | | A |
| | 7. 貢献度 | | | A |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | B | |
| | | (2) 対結果 | B | |
| | 9. 県の負担割合 | | | A |
| 10. O A化の可能性 | | | A | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| 9 | 4 | | | | |

12. 所管課の総合評価

| | |
|------|----------------|
| 総合評価 | |
| 評価区分 | B 具体的方向性 1 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 高齢社会を目前にして地域福祉が重要視されている中で、地域住民と行政とのパイプ役となっている民生委員の果たす役割は、より一層重要なものとして位置付けられており、今後も民生委員の活動を支援していく必要がある。 来年度は、3年に1度の斉改選があるため、県の費用負担増が見込まれ、必要な経費を計上する。 |
|----------|--|

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-01-16

| | | | | | | | |
|-----|--------------|------|----|-----|--------------|-----|----|
| 事業名 | 介護福祉士等修学資金貸付 | 事業番号 | 16 | 課係名 | 福祉・援護課 地域福祉班 | 係番号 | 01 |
|-----|--------------|------|----|-----|--------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 介護福祉士等養成施設の学生</p> <p>(2) 現状 少子・高齢社会の進展、家庭機能の変化に伴う福祉ニーズの多様化に対応するため、専門職の育成・確保が必要となっており、特に質の向上が求められているなか、介護福祉士等国家資格取得者の増加が求められているが、順調にその数が増加していることから、平成17年度で貸付を終了し、平成18年度以降は債権管理のみを行う。</p> <p>(3) 方法 介護福祉士等修学資金の貸付（平成17年度で貸付終了）</p> <p>(4) 目標 社会福祉士及び介護福祉士の増員。介護福祉士等国家資格取得者の数が順調に増加している。</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 貸付 (2) 国庫 国庫補助率：(1/2)</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 社会福祉サービスを適正に実施するためには、福祉人材の養成確保に関して行政が指導・助言していく必要がある。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 「社会福祉事業に従事する者の養成確保を図るための措置に関する基本的な指針」（平成5年4月14日厚生省告示第116号）にて地方公共団体が講ずべき責務について規定されている。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移（単位：千円、人）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>7,344</td> <td>4,752</td> <td>1,452</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.35</td> <td>0.35</td> <td>0.35</td> <td>0.35</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：社会福祉促進費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 7,344 | 4,752 | 1,452 | 0 | 人工数 | 0.35 | 0.35 | 0.35 | 0.35 |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 7,344 | 4,752 | 1,452 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.35 | 0.35 | 0.35 | 0.35 | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>2. 事業の必要性 少子・高齢社会の進展、家庭機能の変化に伴う福祉ニーズの多様化に対応するため、専門職の育成・確保が必要となっており、特に質の向上が求められているなか、介護福祉士等国家資格取得者の増加が求められているが、順調にその数が増加していることから、平成17年度に貸付事業を終了し、平成18年度以降は債権管理のみを行う。</p> <p>3. 実施年度・始期：平成5年，終期：平成17年度</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | |
|---|--|

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を（手段・活動指標） ・介護福祉士等修学資金の貸付額 1,728,000円（H17年度）</p> | <p>8. 過去3年間（H17まで）の実績</p> <p>8 - (1) どこまでやったのか（手段・活動指標） ・貸付のべ人数（201人） ・貸付実人数（112人）</p> | <p>9. 今後3年間（H20まで）の戦略</p> <p>9 - (1) どこまでやる予定なのか（手段・活動指標） 貸付事業はH17年度に終了し、H18年度以降は債権管理のみを行う。</p> |
| <p>(2) その結果、何が（成果指標） ・貸付人数 4人（H17年度）</p> | <p>8 - (2) どの水準まで向上したか（成果指標） ・社会福祉士登録者数（544人） ・介護福祉士登録者数（5,131人）平成18年3月末現在</p> | <p>9 - (2) どの水準まで向上する見込みなのか（成果指標） 社会福祉士及び介護福祉士の増員</p> |

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 地域福祉班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | 担当者 地域福祉班 | | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-01-16 | | | | |
| 事務事業名 | 介護福祉士等修学資金貸付 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 091004008 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 社会福祉促進費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|----------------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画 施策体系 コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|----------------|----------|----------|----------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 介護福祉士等修学資金の貸付額 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 貸付人数 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | 千円 | 7,344.00 | 4,752.00 | 1,728.00 | / | 0.00 |
| 成果指標A' | 人 | 1,700.00 | 11.00 | 4.00 | / | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 7,344 | 4,752 | 1,452 | / | 0 |
| | 人工数D | 0.35 | 0.35 | 0.35 | / | 0.35 |
| | 人件費E | 2,320.50 | 2,254 | 2,254 | / | 2,247 |
| | 合計C+E=F | 9,664.50 | 7,006 | 3,706 | / | 2,247 |

| | |
|---------------------|-------------------------------------|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い | 判定 B |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定 根拠 | 介護福祉士等修学資金を貸し付けることで、資格取得者の増加を図っている。 |
| (2) 県民ニーズの動向 | |
| (判定内容) A: 増加傾向 | |
| 判定 根拠 | 年々、介護福祉士等の資格取得者は、増加傾向にある。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本方針」(平成5年4月14日厚生省告示第116号)により介護福祉士等修学資金の貸与を推進することとされており、全国的に同一サービスである。 平成18年度までに新規貸付廃止(休止)する都道府県は、24件である。(H16年度調べ) | |
| 3. 役割分担(守備範囲) | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本方針」(平成5年4月14日厚生省告示第116号)により介護福祉士等修学資金の貸与を推進することとされており、全国的に同一サービスである。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で県の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本方針」(平成5年4月14日厚生省告示第116号)により介護福祉士等修学資金の貸与を推進することとされており、全国的に同一サービスである。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県が直接実施することが、定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本方針」(平成5年4月14日厚生省告示第116号)により介護福祉士等修学資金の貸与を推進することとされており、全国的に同一サービスである。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 介護福祉士等に対して修学資金を貸与する事業は他にはない。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 将来県内において介護福祉士等の業務に従事しようとする者に対し、修学資金を貸与することにより県内の介護福祉士等の養成・確保を図ることを目的としており、妥当である。 | |
| 7. 貢献度(手段と成果の相関関係) | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 一人当たりの貸与金額は決まっており、予算に応じて介護福祉士の養成に努める。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 平成18年度以降は、債権管理のみを行うため費用はない。しかし、過去5年間において、介護福祉士の資格取得者は500人前後で増加している。 |
|----------|---|

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 平成18年度以降は、債権管理のみを行うため費用はない。しかし、過去5年間において、介護福祉士の資格取得者は500人前後で増加している。 |
|----------|---|

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

| | |
|----------|-------------------|
| 判定 根拠 | 国庫1/2事業であり、妥当である。 |
|----------|-------------------|

10. O A化の可能性 判定 D

(判定内容) D. O A化済（一部O A化含む）である。

| | |
|----------|-----------------------|
| 判定 根拠 | O A化可能であり、一部O A化済である。 |
|----------|-----------------------|

11. 判定結果

| | | | |
|-------------|----------------|---------|--------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | A |
| | 2. サービス水準の他県比較 | B | |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | A |
| 4. 民間委託の可能性 | A | | |
| | 5. 事務事業の選択 | A | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | A | |
| | 7. 貢献度 | A | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 2 |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| | 9. 県の負担割合 | A | |
| | 10. O A化の可能性 | D | |

| | | | | | |
|----|----|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 10 | 2 | | 1 | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|--------|
| 評価区分 | C | 具体的方向性 |
| | | 2 |

(評価区分) : C. 見直す
 (具体的方向性) : 2. 投入資源は減らすが、成果は維持する。

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 少子・高齢社会の進展、家庭機能の変化に伴う福祉ニーズの多様化に対応するため、専門職の育成・確保が必要となっており、特に質の向上が求められているなか、介護福祉士等国家資格取得者の増加が求められている。しかし、介護福祉士等国家資格取得者数が増加していることから、平成17年度に貸付事業を終了し、平成18年度以降は、債権管理のみを行う。 |
|----------|---|

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-01-17

| | | | | | | | |
|-----|--------------|------|----|-----|--------------|-----|----|
| 事業名 | 福祉人材研修センター事業 | 事業番号 | 17 | 課係名 | 福祉・援護課 地域福祉班 | 係番号 | 01 |
|-----|--------------|------|----|-----|--------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 社会福祉の仕事に就きたい人(求職者)と雇いたい人(求人) 今後、社会福祉の仕事に就く可能性がある人 社会福祉事業従事者(行政、社会福祉施設等)</p> <p>(2) 現状 厳しい雇用・失業情勢が続くなか、求職者への無料職業紹介等による就業斡旋の実施及び研修の実施により、質の高い福祉サービスの向上を図っている。</p> <p>(3) 方法 ・福祉人材無料職業紹介 ・福祉人材開発事業(各種セミナー、説明会等の開催) ・社会福祉研修の実施</p> <p>(4) 目標 ・福祉分野への就業斡旋 ・福祉人材の育成・確保</p> <p>2. 事業の必要性 厳しい雇用・失業情勢が続くなか、求職者への無料職業紹介等による就業斡旋を実施している。 また、福祉施設等の求人側においては、質の高い人材確保が課題となっており、福祉人材研修センターにおける人材紹介及び研修事業が重要な役割を果たしている。</p> <p>3. 実施年度・始期：S56年，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)国庫 国庫補助率：(1/2)</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 社会福祉サービスの円滑な推進を図るため、福祉人材の養成確保に関して行政が指導・助言する必要がある。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本的な指針」(平成5年4月14日厚生省告示第116号)に地方公共団体が講ずべき責務について規定されている。 社会福祉法第21条にて福祉行政職員の訓練について県知事の責務が規定されている。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位：千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>100,178</td> <td>86,106</td> <td>78,719</td> <td>79,181</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.55</td> <td>0.55</td> <td>0.55</td> <td>0.45</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：福祉人材研修センター事業費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 100,178 | 86,106 | 78,719 | 79,181 | 人工数 | 0.55 | 0.55 | 0.55 | 0.45 |
|---|---|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|--------|--------|--------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 100,178 | 86,106 | 78,719 | 79,181 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.55 | 0.55 | 0.55 | 0.45 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求職者数 ・求人数 ・研修コース数 <p>(2) その結果、何が(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職者数 ・受講者数 | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材無料職業紹介 ・福祉人材開発事業(各種セミナー、説明会等の開催) ・啓発・調査研究事業(ガイドブック、概要等の発行) ・研修実施数23コース <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人登録件数 818件 ・求職登録者数 6,233件 ・就職件数 240件 ・受講者数 1,924人 (H17年度) | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人及び求職者の確保 ・福祉分野の職業紹介及び啓発・広報 ・研修事業の実施 <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人数の増 ・福祉分野への理解と関心を深める。 ・福祉事業従事者の質の確保 |
|---|---|--|

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 地域福祉班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | 担当者 地域福祉班 | | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|--|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-01-17 | | | | |
| 事務事業名 | 福祉人材研修センター事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(1) | | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

| | |
|---------|------------------|
| 事務事業の区分 | 1. 内部事務事業以外の事務事業 |
|---------|------------------|

| | | | | | | | |
|------------------|---------|------------|----------|----------|-------|----------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 求人数 | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 就職件数 | | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 研修実施数 | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 受講者数 | | | | | | |
| <指標の推移> | | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | 件 | 761.00 | 741.00 | 818.00 | / | 1,000.00 | |
| 成果指標A' | 件 | 249.00 | 267.00 | 240.00 | / | 300.00 | |
| 活動指標B | コース | 25.00 | 22.00 | 23.00 | / | 22.00 | |
| 成果指標B' | 人 | 2,087.00 | 1,904.00 | 1,924.00 | / | 1,904.00 | |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 100,178 | 86,106 | 78,719 | / | 79,181 | |
| | 人工数D | 0.55 | 0.55 | 0.00 | / | 0.00 | |
| | 人件費E | 3,646.50 | 3,542 | 0 | / | 0 | |
| | 合計C+E=F | 103,824.50 | 89,648 | 78,719 | / | 79,181 | |

| | |
|---|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 B | |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | 社会福祉事業に従事する福祉専門職(介護職、保育士等)や、その他の職種(看護師、栄養士等)を対象とした分野への就職斡旋、求人登録を行っている。また、福祉への理解・関心をもってもらい、福祉の仕事に参加してもらえるよう、福祉の職場説明会、福祉のしごとセミナー、福祉入門講座等を実施した結果、実際の福祉の情報や資格取得方法の情報が得られる等、一定の評価を得ている。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 A | |
| (判定内容) A: 増加傾向 | |
| 判定根拠 | 少子高齢社会が進展し生産年齢人口が減少していくなか、福祉に携わる人材の確保及び質の向上が課題となっており、福祉人材研修センターの役割として、再就職支援や就職斡旋等が必要となっている。また、職員の定着促進の施策、キャリアアップ等の研修が求められている。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|---|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定根拠 | 全県で人材センター事業を行っており他県並みである。 また、ほとんどの件で県単独若しくは社協に委託して研修事業を実施しているため、他県並みである。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 D |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) D. 民間が実施すべき事業である。 | | |
| 判定根拠 | 社会福祉法により都道府県ごとに1個に限り、人材センターを設置することとされている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県の実施が妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 社会福祉法により福祉人材研修センターが行うこととされている。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 E |
| (判定内容) E. 民間委託済み（一部委託含む）。 | | |
| 判定根拠 | 社会福祉法により福祉人材研修センターが行うこととされている。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 対象や目標等に類似する事務事業がある。 | | |
| 判定根拠 | 類似の事務事業にハローワークやナースセンター等の機関があるが、社会福祉事業に従事する福祉専門職（介護職、保育士等）やその他の職種（看護師、栄養士等）を対象とした分野に就職斡旋、求人登録を両機関と連携して行っている。 また、研修事業は、県社協独自研修の他、県庁各課・福祉保健所、市町村、全社協等全国組織など、幅広い主催者により研修が行われている。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定根拠 | 全国的に医療・福祉分野への雇用者数は増加傾向にあり、本県でも当該分野への取り組みは重要である。 社会福祉事業は、人を相手とし、人が行うサービスであり、その適正な実施を図るためには、社会福祉事業に従事する者の質及び量の両面を確保する必要があり、社会福祉従事者に対する研修を実施することは重要である。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 D |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) D. あまり影響しない。 | | |
| 判定根拠 | 求人数は増加傾向にあるが、就職数は減少しているため。 近年、福祉分野の需給の動向が逆転しているため、就職者が減少している。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果
 (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 判定 根拠 | 費用は低下しているが、予算の範囲内で人材及び研修事業を行っている。 |
|----------|-----------------------------------|

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 判定 根拠 | 費用は低下しているが、予算の範囲内で人材及び研修事業を行っている。 |
|----------|-----------------------------------|

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 無料職業紹介事業が主体事業となっており、公費以外での収入源がないため、県の負担割合は妥当である。今後も法令で県が実施する必要がある研修については、福祉人材研修センターで実施する。 |
|----------|---|

10. O A化の可能性 判定 D

(判定内容) D. O A化済（一部O A化含む）である。

| | |
|----------|---|
| 判定 根拠 | 平成16年3月よりe-HOTシステムが稼働し、従来の来所型による求職登録方式とは別に、インターネット方式による職業紹介が行えるようになった。現在、リニューアルが必要となっているため、平成19年1月に新システムが稼働予定である。 |
|----------|---|

11. 判定結果

| | | | |
|--------------|----------------|---------|--------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | A |
| | 2. サービス水準の他県比較 | B | |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | B |
| 4. 民間委託の可能性 | E | | |
| 5. 事務事業の選択 | C | | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | A | |
| | 7. 貢献度 | D | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 2 |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| | 9. 県の負担割合 | A | |
| 10. O A化の可能性 | D | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 5 | 3 | 1 | 3 | 1 |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|---------|
| 評価区分 | B | 具体的な方向性 |
| | | 1 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的な方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 福祉分野の制度政策や労働市場についての動向に詳しく、複雑な制度（職種・資格）等に適格に情報提供・助言を行うことができ、福祉分野への就労拡大に対応するため現状どおり支援していく必要がある。ハローワークのように、雇用給付金、失業給付のように求人、求職者に利用を促す絶対的な誘因を持っていないため、今後の対応策を検討することになっている国の考えを注視する必要がある。 |
|----------|--|

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-02-04

| | | | | | | | |
|-----|--------------|------|----|-----|------------|-----|----|
| 事業名 | 生活保護担当職員研修事業 | 事業番号 | 04 | 課係名 | 福祉・援護課 保護班 | 係番号 | 02 |
|-----|--------------|------|----|-----|------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 市及び郡部福祉事務所生活保護担当職員（ケースワーカー、査察指導員等）、町村生活保護担当職員、県本庁生活保護担当職員</p> <p>(2) 現状 毎年各市、郡部福祉事務所において、生活保護担当職員の1/3程度の人事異動があり、生活保護事務未経験、福祉行政未経験者をケースワーカー及び査察指導員に任用している現状にあり、そのような人たちを対象とした様々な研修の実施が必要とされている。</p> <p>(3) 方法 派遣研修（国、国立公衆衛生院が実施する研修への派遣） 委託研修（県立社会福祉研修所へ委託） 独自企画研修の形態で実施している。</p> <p>(4) 目標 生活保護担当職員の資質の向上を図り、県民がどの地域に居住していても公平な最低生活が保障される実施体制及び生活保護業務の円滑化。</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)国庫 国庫補助率：(10/10)</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 専門性の高い分野であり、「民」において効果的な研修を実施するのは困難</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 生活保護法の規定により、施行事務指導監査は県において行っており、また制度の運用に当たっても中心的役割を担っている。研修の効果測定の観点からも県で行うことが最も有効</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移（単位：千円、人）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>2,208</td> <td>2,444</td> <td>1,695</td> <td>1,512</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：生活保護指導諸費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 2,208 | 2,444 | 1,695 | 1,512 | 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.10 | 0.10 |
|--|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 2,208 | 2,444 | 1,695 | 1,512 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.10 | 0.10 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 被保護世帯に対する処遇面での不均衡が生じることなく、またどの地域に居住していても公平な最低生活が保障されるという生活保護の適正実施体制づくりのために、生活保護担当職員の資質の向上が求められていることから当該事業の実施は必要。 また、今後は市町村合併に伴い、市福祉事務所の増が見込まれるが、配置転換によりケースワーカー及び査察指導員に未経験者を充てざるを得ない状況が予想されることから、研修事業の充実が望まれるところである。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期：昭和47年度，終期：</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|---|
| <p>(1) 何を（手段・活動指標） 新任ケースワーカー、ケースワーカー、査察指導員、県本庁指導監督職員等を対象に国等が実施する研修への派遣、県立社会福祉研修所への委託研修、独自企画研修を実施。</p> <p>(2) その結果、何が（成果指標） 生活保護担当職員の資質の向上が図られた。</p> | <p>8. 過去3年間（H17まで）の実績</p> <p>8 - (1) どこまでやったのか（手段・活動指標） 職員研修参加申し込み定員 平15（112人） 平16（160人） 平17（250人） 国及び県主催の職員研修件数 平15（6） 平16（7） 平17（11）</p> <p>8 - (2) どの水準まで向上したか（成果指標） 職員研修実参加人員 平15（106人） 平16（145人） 平17（272人） 申込者に対する参加者の割合 平15（94.6） 平16（90.6） 平17（91.9）</p> | <p>9. 今後3年間（H20まで）の戦略</p> <p>9 - (1) どこまでやる予定なのか（手段・活動指標） 法定事務のため16年度と同様の研修を予定 職員研修参加申し込み定員 平19（160人） 国及び県主催の職員研修件数 平19（10）</p> <p>9 - (2) どの水準まで向上する見込みなのか（成果指標） 職員研修実参加人員 平19（160人） 申込者に対する参加者の割合 平19（100.0）</p> |
|---|--|---|

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|---------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 保護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 保護班 | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 02 | 電話番号 | 866-2169 |
| 作成年月日 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-02-04 | | | | |
| 事務事業名 | 生活保護担当職員研修事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 115002001 | 事業区分 | A | | |
| 歳出事業名(1) | 生活保護指導諸費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|-------------------|--------------------------------|--------|--------|--------|-------|-----------|
| 活動指標名又は活動の内容 (A) | 生活保護担当を対象に国及び県が実施する研修への参加申込み人数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容 (A') | 生活保護担当職員の資質の向上 (参加人数の割合) | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容 (B) | 職員研修参加人数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容 (B') | 国主催、県主催の職員研修の件数 | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標: H20年度 |
| 活動指標 A | 人 | 133.00 | 112.00 | 160.00 | | 160.00 |
| 成果指標 A' | % | 96.20 | 94.60 | 90.60 | | 100.00 |
| 活動指標 B | 人 | 128.00 | 106.00 | 145.00 | | 160.00 |
| 成果指標 B' | 件 | 6.00 | 6.00 | 7.00 | | 70.00 |
| 投入資源 (単位: 千円) | 予決算額 C | 2,208 | 2,444 | 1,695 | 1,512 | |
| | 人工数 D | 0.20 | 0.20 | 0.10 | 0.10 | |
| | 人件費 E | 1,326 | 1,288 | 644 | 642 | |
| | 合計 C + E = F | 3,534 | 3,732 | 2,339 | 2,154 | |

| | |
|---|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 B | |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | 生活保護関係の研修に、16福祉事務所等から毎年130名程の参加希望者があり、その9割が研修に参加し、県民のニーズに応えられるよう努めている。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 B | |
| (判定内容) B: 横ばい | |
| 判定根拠 | 研修参加人員は横ばいである。なお、平成17年度は臨時的研修として「自立支援プログラム研修会」を開催した。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--------------------|--------------------|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 国主催の研修参加者は他府県並である。 | |

| | | |
|-----------------------------|----------------|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施がさだめられている。 | | |
| 判定 根拠 | 社会福祉法に規定されている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 社会福祉法に規定されている。 | |

| | | |
|-----------------------------------|----------------|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県が直接実施することが、定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 社会福祉法に規定されている。 | |

| | | |
|-------------------------------|------------------|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 他部局に類似する事務事業はない。 | |

| | | |
|-----------------------------------|----------------|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 法令で対象が定められている。 | |

| | | |
|--------------------|--|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 毎年定期的に研修会を実施することによって、生活保護担当者の知識の向上に役立っている。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果
 (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。

判定根拠
 費用は低下し、研修参加者数は横ばいである。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。

判定根拠
 費用は低下し、研修参加者数は横ばいである。

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

判定根拠
 法令で定められている。

10. O A 化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A 化が困難である。

判定根拠
 研修が主な事務事業であるため性質上困難である。

11. 判定結果

| | | | |
|-----|----------------|---------------|---------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | B |
| 必要性 | 2. サービス水準の他県比較 | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | A |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | | A |
| | 5. 事務事業の選択 | | A |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | A |
| | | 7. 貢献度 | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | | (1) 対成果 |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| 効率性 | 9. 県の負担割合 | | A |
| | | 10. O A 化の可能性 | A |

| | | | | | |
|----|-----|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 1 0 | 3 | | | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|--------|
| 評価区分 | B | 具体的方向性 |
| | | 1 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。

判定根拠
 当該事業は、生活保護の適正実施に必要な知識、情報の提供または情報交換するために国及び県が毎年主催する研修事業であり現状維持が妥当である。

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-02-08

| | | | | | | | |
|-----|------------------|------|----|-----|------------|-----|----|
| 事業名 | 行旅病人及び行旅死亡人の取扱事務 | 事業番号 | 08 | 課係名 | 福祉・援護課 保護班 | 係番号 | 02 |
|-----|------------------|------|----|-----|------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 関係市町村</p> <p>(2) 現状 行旅病人及び行旅死亡人発生地の市町村が一時支弁した費用について県が費用弁償を行う。</p> <p>(3) 方法 行旅病人及び行旅死亡人発生地の市町村が一時支弁した費用について県が費用弁償を行う。</p> <p>(4) 目標 法に基づき適正に処理する。</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 行政 (2) 単独</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 行旅病人及び行旅死亡人取扱法 行旅病人及び行旅死亡人取扱法施行規則</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 行旅病人及び行旅死亡人取扱法 行旅病人及び行旅死亡人取扱法施行規則</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移 (単位: 千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>1,625</td> <td>1,027</td> <td>787</td> <td>948</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名: 生活保護援護費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 1,625 | 1,027 | 787 | 948 | 人工数 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 1,625 | 1,027 | 787 | 948 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 行旅病人及び行旅死亡人取扱法、行旅病人及び行旅死亡人取扱法施行規則</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期: 昭和47年度, 終期:</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4. 自治上の区分: 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|---|---|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 行旅病人及び行旅死亡人に対する市町村等からの照会</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績 8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) 行旅死亡人周知依頼先の件数 15年度798件 16年度570件 17年度230件 行旅病人の周知件数(他府県からの依頼を含む) 15年度1,368件 16年度1,026件 17年度1,058件</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略 9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 行旅死亡人周知依頼先の件数 20年度460件 行旅病人の周知件数(他府県からの依頼を含む) 20年度1,100件</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) 行旅病人及び行旅死亡人に対する援護措置がスムーズに実施できる</p> | <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) 行旅病人の救護件数 15年度14件 16年度0件 17年度0件 行旅死亡人の費用支弁件数 15年度10件 16年度9件 16年度6件</p> | <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 行旅病人の救護件数 20年度7件 行旅死亡人の費用支弁件数 20年度10件</p> |

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|---------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 保護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 保護班 | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 02 | 電話番号 | 866-2169 |
| 作成年月日 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-02-08 | | | | |
| 事務事業名 | 行旅病人及び行旅死亡人の取扱事務 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 116001001 | 事業区分 | A | | |
| 歳出事業名(1) | 生活保護援護費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

| | |
|---------|------------------|
| 事務事業の区分 | 1. 内部事務事業以外の事務事業 |
|---------|------------------|

| | | | | | | |
|-------------------|------------------------------|----------|----------|----------|-------|-----------|
| 活動指標名又は活動の内容 (A) | 行旅病人・行旅死亡人に対する市町村等からの照会 (件数) | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容 (A') | 行旅病人へのスムーズな援護措置 (措置件数) | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容 (B) | 行旅死亡人周知依頼先の件数 (他府県への依頼を含む) | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容 (B') | 行旅病人の周知依頼先の件数 (他府県からの依頼を含む) | | | | | |
| < 指標の推移 > | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標: H20年度 |
| 活動指標 A | 件 | 2,166.00 | 1,596.00 | 1,288.00 | | 1,560.00 |
| 成果指標 A' | 件 | 14.00 | 0.00 | 0.00 | | 7.00 |
| 活動指標 B | 件 | 798.00 | 570.00 | 230.00 | | 460.00 |
| 成果指標 B' | 件 | 1,368.00 | 1,026.00 | 1,058.00 | | 1,100.00 |
| 投入資源 (単位: 千円) | 予決算額 C | 1,625 | 1,027 | 787 | 948 | |
| | 人工数 D | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | |
| | 人件費 E | 663 | 644 | 644 | 642 | |
| | 合計 C + E = F | 2,288 | 1,671 | 1,431 | 1,590 | |

| | |
|---|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 A | |
| (判定内容) A: 満足している。 | |
| 判定根拠 | 行旅病人・行旅死亡人について、住民からの通報があると、市町村等は病院への搬送、扶養義務者の調査等迅速に対応するため、県民生活の安定、安心に貢献している。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 C | |
| (判定内容) C: 減少傾向 | |
| 判定根拠 | 住民からの通報で、市町村が行旅病人・行旅死亡人を取扱った件数は、平成15年24件、平成16年9件、17年6件である。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 行旅病人及び行旅死亡人取扱法に基づいて事業が行われている。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施がさだめられている。 | | |
| 判定 根拠 | 法令で、行旅病人及び行旅死亡人の救護等については市町村、救護費用等の負担については県が行うと定められている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で県の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 法令で、県、市町村の役割分担については定められている。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県が直接実施することが、定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 法令で、県、市町村の役割分担については定められている。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 他部局に類似の事業はない。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 法令で、対象が「歩行に堪えざる行旅中の病人で療養の途を有せずかつ救護者なき者」「行旅中死亡し引取者なき者」と定められ、住民に密着した市町村がその救護を行い、県がその費用を負担することになっており妥当である。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 行旅病人の急迫保護（職権保護）の場合、住民等からの通報、救急車による病院搬送、そして福祉事務所における生活保護の開始へと結びつくことが多い。また、身元不明者等の周知依頼を行うことにより身元が判明する場合がある。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果
 (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると
 (判定内容) D: 費用、成果とも低下傾向。 判定 | D

判定根拠
 過去3年間の推移から費用及び効果とも低下傾向にある。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると
 (判定内容) D: 費用、結果とも低下傾向。 判定 | D

判定根拠
 過去3年間の推移から費用及び結果とも低下傾向にある。

9. 県の負担割合 判定 | A

(判定内容) A: 妥当である。

判定根拠
 法令で県がその取扱い費用については負担すると定められている。

10. O A化の可能性 判定 | A

(判定内容) A: 事務事業の性質上、O A化が困難である。

判定根拠
 行旅病人及び行旅死亡人の取扱い費用の請求が市町村からある場合は、内容審査が必要のため性質上O A化は困難である。

11. 判定結果

| | | | |
|----------|----------------|--------------|---------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | A |
| | | (2) ニーズ | C |
| 必要性 | 2. サービス水準の他県比較 | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| (2) 県市町村 | A | | |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | | A |
| | | 5. 事務事業の選択 | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | |
| | | 7. 貢献度 | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | | (1) 対成果 |
| | | (2) 対結果 | D |
| 効率性 | 9. 県の負担割合 | | A |
| | | 10. O A化の可能性 | A |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 9 | 1 | 1 | 2 | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | |
|------|----------------|
| 評価区分 | B 具体的方向性 1 |

(評価区分): B: 現状維持
 (具体的方向性): 1: 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。

判定根拠
 当該事業は、行旅病人及び行旅死亡人に係る費用を市町村が繰替支弁した場合、県が費用弁償する事業であり、事業が法定受託事務であることから予算・人員については現状維持が妥当である。

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-02-10

| | | | | | | | |
|-----|-----------------------|------|----|-----|------------|-----|----|
| 事業名 | 生活保護法による医療機関・介護機関の指定等 | 事業番号 | 10 | 課係名 | 福祉・援護課 保護班 | 係番号 | 02 |
|-----|-----------------------|------|----|-----|------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 生活保護法による指定医療機関・指定介護機関</p> <p>(2) 現状 生活保護法の指定を希望する医療機関等は、同法第49条及び54条の2により、各福祉事務所経由で申請書を受理し、指定等を行い、県公報で告示している。</p> <p>(3) 方法 生活保護法の指定を希望する医療機関等は、同法第49条及び54条の2により、各福祉事務所経由で申請書を受理し、指定等を行い、県公報で告示している。</p> <p>(4) 目標 生活保護法による指定を希望する全ての医療機関・介護機関の指定を行う。</p> <p>2. 事業の必要性 生活保護法第49条及び第54条の2の規定により医療機関・介護機関を指定し、各福祉事務所の患者委託を容易にするとともに、当該指定機関に対し生活保護法による「指定医療機関医療担当規程」、指定介護機関介護担当規程」を遵守させる。</p> <p>3. 実施年度・始期：昭和47年度，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 法定受託事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 生活保護法第19条第1項により生活保護の実施機関は、都道府県知事及び市町村長となっている。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 生活保護法第49条及び第55条の2により、指定医療機関、指定介護機関の指定・告示をしなければならない。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位：千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>480</td> <td>144</td> <td>244</td> <td>244</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.30</td> <td>0.30</td> <td>0.30</td> <td>0.30</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：生活保護指導諸費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 480 | 144 | 244 | 244 | 人工数 | 0.30 | 0.30 | 0.30 | 0.30 |
|--|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 480 | 144 | 244 | 244 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.30 | 0.30 | 0.30 | 0.30 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 医療・介護機関の指定申請・廃止・変更等の審査</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) 指定医療機関申請・廃止・変更等の周知件数 15年度260件 16年度188件 17年度202件 指定介 護機関申請・廃止・変更等の周知件数 15年度400件 16年度194件 17年度170件</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 指定医療機関申請・廃止・変更等の周知件数 20年度300件 指定介護機関申請・廃止・変更等の周知件数 20年度300件</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) 医療機関の指定・告示</p> | <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) 指定医療機関件数(内科・歯科・薬局等) 15年度1,981件 16年度2,070件 17年度2,117 指定介護機関件数(訪問介護、訪問看護、通所介護等) 15年度4,249件 16年度4,338件 17年度4,431</p> | <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 療機関件数(内科・歯科・薬局等) 20年度2,300件 指定介護機関件数(訪問介護、訪問看護、通所介護等) 20年度4,600件</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|---------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 保護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 保護班 | |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 02 | 電話番号 | 866-2169 |
| 作成年月日 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|-----------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-02-10 | | | | |
| 事務事業名 | 生活保護法による医療機関・介護機関の指定等 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 115002001 | 事業区分 | A | | |
| 歳出事業名(1) | 生活保護指導諸費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|----------------------|----------|----------|----------|-------|-----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 医療機関の指定等周知件数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 医療機関の指定・告示(指定医療機関件数) | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 介護機関の指定等周知件数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 介護機関の指定・告示(指定介護機関件数) | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標: H20年度 |
| 活動指標A | 件 | 260.00 | 188.00 | 202.00 | / | 300.00 |
| 成果指標A' | 件 | 1,981.00 | 2,070.00 | 2,117.00 | / | 2,300.00 |
| 活動指標B | 件 | 400.00 | 194.00 | 170.00 | / | 300.00 |
| 成果指標B' | 件 | 4,249.00 | 4,338.00 | 4,431.00 | / | 4,600.00 |
| 投入資源 (単位:千円) | 予決算額C | 480 | 144 | 244 | / | 244 |
| | 人工数D | 0.30 | 0.30 | 0.30 | / | 0.30 |
| | 人件費E | 1,989 | 1,932 | 1,932 | / | 1,926 |
| | 合計C+E=F | 2,469 | 2,076 | 2,176 | / | 2,170 |

| | |
|---|-------------------------------------|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 B | |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | 生活保護法による指定医療機関、指定介護機関の件数はともに増加している。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 A | |
| (判定内容) A: 増加傾向 | |
| 判定根拠 | 生活保護法による指定医療機関、指定介護機関の件数はともに増加している。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--------------------|---------------------|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 生活保護法に基づく法定受託事務である。 | |

| | | |
|-----------------------------|---------------------|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 A |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) A. 法令で官の実施がさだめられている。 | | |
| 判定 根拠 | 生活保護法で県の実施が定められている。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県の実施が定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 生活保護法で県の実施が定められている。 | |

| | | |
|-----------------------------------|---------------------|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 法令で県が直接実施することが、定められている。 | | |
| 判定 根拠 | 生活保護法で県の実施が定められている。 | |

| | | |
|-------------------------------|------------------|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 他部局に類似する事務事業はない。 | |

| | | |
|-----------------------------------|-------------------|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 生活保護法で対象が定められている。 | |

| | | |
|--------------------|---|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 当該事業は、生活保護法の適正実施に必要な医療機関及び介護機関の指定、廃止及び変更等の届出を処理する事務である。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。

判定根拠 指定医療機関、指定介護機関の件数はともに増加傾向にあり成果は上昇している。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。

判定根拠 指定医療機関、指定介護機関の件数はともに増加傾向にあり結果は上昇している。

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

判定根拠 生活保護法で定められている。

10. O A化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。

判定根拠 医療機関、介護機関からの指定申請書等の審査を必要とするためO A化は困難である。

11. 判定結果

| | | | |
|-----|----------------|--------------|---------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | A |
| 必要性 | 2. サービス水準の他県比較 | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | A |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | | A |
| | | 5. 事務事業の選択 | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | |
| | | 7. 貢献度 | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | | (1) 対成果 |
| | | (2) 対結果 | A 1 |
| 効率性 | 9. 県の負担割合 | | A |
| | | 10. O A化の可能性 | A |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 1 | 1 | 2 | | |

12. 所管課の総合評価

総合評価
 評価区分 B | 具体的方向性 1

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。

判定根拠 当該事業は、医療機関等から各福祉事務所を経由して提出される生活保護法における医療機関等の指定申請書等を処理する事務であるが、活動及び成果は上昇していること。また、事業が法定受託事務であることから現状維持が妥当である。

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-03-06

| | | | | | | | |
|-----|-------|------|----|-----|------------|-----|----|
| 事業名 | 海外慰霊祭 | 事業番号 | 06 | 課係名 | 福祉・援護課 援護班 | 係番号 | 03 |
|-----|-------|------|----|-----|------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 今次大戦中、南洋群島（サイパン、テニアン）、フィリピン、中国で戦死された沖縄県出身者</p> <p>(2) 現状 毎年墓参団を編成して、南洋群島帰還者が主催する海外慰霊祭に県は共催し、遺族と共に参列して知事の「追悼のことは」を述べる</p> <p>(3) 方法 毎年墓参団を編成して、南洋群島帰還者が主催する海外慰霊祭に県は共催し、遺族と共に参列して知事の「追悼のことは」を述べる</p> <p>(4) 目標 南洋群島 当面 300人規模の参列 フィリピン 当面 100人規模の参列 中国 当面 15人規模の参列（現在休止）</p> <p>2. 事業の必要性 南洋群島、フィリピンで各々1万2千余人、中国で1,729人の在留沖縄県人が戦禍の犠牲となった。慰霊祭には、県として追悼の意を表すために今後も共催し、遺族の方々と共に慰霊墓参を行う</p> <p>3. 実施年度・始期：昭和43年，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 南洋群島、フィリピン、中国で戦死された沖縄県出身者への哀悼の意を表すため、慰霊祭を共催し参列する</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 南洋群島、フィリピン、中国で戦死された沖縄県出身者への哀悼の意を表すため、慰霊祭を共催し参列する</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移（単位：千円、人）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>926</td> <td>668</td> <td>1,158</td> <td>740</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：慰霊等事業費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 926 | 668 | 1,158 | 740 | 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.00 |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 926 | 668 | 1,158 | 740 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.00 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|--|
| <p>(1) 何を（手段・活動指標） 海外慰霊墓参</p> | <p>8. 過去3年間（H17まで）の実績</p> <p>8 - (1) どこまでやったのか（手段・活動指標） 南洋群島墓参 フィリピン墓参 （中国墓参は、平成13年度から政情不安等のため休止）</p> | <p>9. 今後3年間（H20まで）の戦略</p> <p>9 - (1) どこまでやる予定なのか（手段・活動指標） 海外慰霊祭へ、県三役の参列</p> |
| <p>(2) その結果、何が（成果指標） 海外慰霊祭 南洋群島 フィリピン</p> | <p>8 - (2) どの水準まで向上したか（成果指標） 南洋群島における慰霊祭に188人参列 フィリピンにおける慰霊祭に146人参列</p> | <p>9 - (2) どの水準まで向上する見込みなのか（成果指標） 海外慰霊祭 南洋群島 300人規模の参列 フィリピン 100人規模の参列</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 援護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 | 援護班 |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 03 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|--|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-03-06 | | | | |
| 事務事業名 | 海外慰霊祭 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(1) | | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |

| | |
|---------|------------------|
| 事務事業の区分 | 1. 内部事務事業以外の事務事業 |
|---------|------------------|

| | | | | | | |
|------------------|------------|--------|--------|--------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 慰霊墓参参列者数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 目標に対する参列者数 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | 人 | 400.00 | 283.00 | 334.00 | / | 0.00 |
| 成果指標A' | % | 100.00 | 70.70 | 83.50 | / | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | / | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 926 | 668 | 1,158 | 740 | / |
| | 人工数D | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.00 | / |
| | 人件費E | 1,326 | 1,288 | 1,288 | 0 | / |
| | 合計C+E=F | 2,252 | 1,956 | 2,446 | 740 | / |

| | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い | 判定 B |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | 海外での戦没者の慰霊供養を行い、戦争体験の承継と恒久平和の構築への貢献。 |
| (2) 県民ニーズの動向 | |
| (判定内容) B: 横ばい | |
| 判定根拠 | 参列者の遺族や関係者は毎年増減がある。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|---------------------|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 他県水準より高い。 | | |
| 判定 根拠 | 他県には、本県のような海外の碑や慰霊塔など、類似施設及び対応（事業）は少ないと考えている。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 B |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、官の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 海外における慰霊祭のような性質の事業は、その内容等から行政機関が行うべきであろう。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 沖縄県が追悼の意を表すための事業で、市町村の役割は極めて少ない。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県が直接実施することが妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 海外における慰霊祭等は、事業しての内容や性質からいえば、民間に委託実施すべきものではない。 | |

| | | |
|-------------------------------|--------------------------------|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 海外での慰霊祭は、海外で戦没した沖縄出身者の慰霊供養である。 | |

| | | |
|-----------------------------------|--|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 対象者は、先の大戦で海外にて戦没した本県出身者の御霊を慰霊・供養するもので、戦没者の遺族や関係者が参列する。 | |

| | | |
|--------------------|---|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 戦没者の慰霊供養には、遺族や関係者及び一般のかたがたも参列していただき、地域社会への貢献度はかなり大きい。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果
 (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。

判定根拠 海外慰霊に関しては費用対効果などは計れるものではないが、社会の安寧平和の構築に資する。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。

判定根拠 海外慰霊際には、毎年遺族や関係者及び一般のかたがたも参列していただいている。

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

判定根拠 本件（海外慰霊祭）の事業は行政機関が行うべきもので、県の負担は妥当である。

10. O A 化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A 化が困難である。

判定根拠 本件に係る事業の一連の事務作業等は、その性質や内容から O A 化はなじまない。

11. 判定結果

| | | | |
|-----|----------------|---------------|---------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | B |
| 必要性 | 2. サービス水準の他県比較 | | C |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | B |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | | B |
| | 5. 事務事業の選択 | | A |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | A |
| | | 7. 貢献度 | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | | (1) 対成果 |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| 効率性 | 9. 県の負担割合 | | A |
| | | 10. O A 化の可能性 | A |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 7 | 5 | 1 | | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|--------|
| 評価区分 | B | 具体的方向性 |
| | | 2 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 2. 投入資源を現状並とし、成果を維持する。

判定根拠 県では、毎年海外で戦没した本県出身者の慰霊供養を、サイパン・テニアンにおいて「南洋群島慰霊祭」を、また、フィリピンでも慰霊祭を行い、遺族や関係者及び一般のかたがたも多く参列され、地域社会への貢献も大きい。

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-03-07

| | | | |
|---------------------|------------|-------------------|-----------|
| 事業名 都道府県・各団体等慰霊祭 | 事業番号 07 | 課係名 福祉・援護課 援護班 | 係番号 03 |
|---------------------|------------|-------------------|-----------|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 沖縄県及び各都道府県出身の戦没者</p> <p>(2) 現状 8月15日に政府主催で行われる全国戦没者追悼式を始め、県内に建立されている46都道府県及び各団体等の慰霊碑等の慰霊祭への参列</p> <p>(3) 方法 8月15日に政府主催で行われる全国戦没者追悼式を始め、県内に建立されている46都道府県及び各団体等の慰霊碑等の慰霊祭へ参列する</p> <p>(4) 目標 遺族及び関係機関、県知事等の参列</p> <p>2. 事業の必要性 今次大戦の沖縄戦において、日米両国将兵、沖縄県民あわせて20万人余の貴い人命が失われた。亡くなられた方々に対する慰霊のため、遺族と共に県も慰霊祭等に参列する。</p> <p>3. 実施年度・始期：昭和36年，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか ・政府主催の追悼式に、県知事及び遺族に対し参列の案内がある ・県内に建立されている各都道府県及び各団体等から、県知事等へ慰霊祭参列の案内がある</p> <p>(2) 何故、県が行うのか ・政府主催の追悼式に、県知事及び遺族に対し参列の案内がある ・県内に建立されている各都道府県及び各団体等から、県知事等へ慰霊祭参列の案内がある</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位：千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>712</td> <td>720</td> <td>926</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：慰霊等事業費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 712 | 720 | 926 | 698 | 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.00 | 0.00 |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 712 | 720 | 926 | 698 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.00 | 0.00 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) ・全国戦没者追悼式参列 ・都道府県、各団体等の慰霊祭への参列</p> <p>(2) その結果、何が(成果指標) ・全国戦没者追悼式参列 ・都道府県、各団体等の慰霊祭への参列</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) ・遺族及び関係機関、県知事(代理)参列 ・県知事等県が招待を受けた慰霊祭への参列</p> <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) ・全国戦没者追悼式 67人参列 ・都道府県、各団体等66箇所の慰霊祭に県知事(代理)参列</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 遺族及び関係機関、県知事等の参列</p> <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 遺族及び関係機関、県知事等の参列</p> |
|---|---|--|

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 援護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 | 援護班 |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 03 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|--|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-03-07 | | | | |
| 事務事業名 | 都道府県・各団体等慰霊祭 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(1) | | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|----------------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画 施策体系 コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|---------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | 回 | 69.00 | 69.00 | 69.00 | 69.00 | 0.00 |
| 成果指標A' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 712 | 720 | 926 | 698 | 698 |
| | 人工数D | 0.20 | 0.20 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | 人件費E | 1,326 | 1,288 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計C+E=F | 2,038 | 2,008 | 926 | 698 | 698 |

1. 県民意識の把握

(1) 県民満足度の度合い 判定 -

(判定内容) :-

判定根拠

(2) 県民ニーズの動向 判定 -

(判定内容) :-

判定根拠

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|------------------|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | | |

| | | |
|-----------------|--|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 - |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | | |

| | | |
|---|--|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県が直接実施することが妥当である。 | | |
| 慰霊祭に参列して追悼のことばを述べるものであり、民間が行うものではない。 | | |
| 判定 根拠 | | |

| | | |
|----------------------------------|--|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 慰霊祭において御霊をなぐさめ、供養するとともに、恒久平和を願う。 | | |
| 判定 根拠 | | |

| | | |
|-----------|--|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | | |

| | | |
|--------------------|--|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 - |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果
 (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 -
 (判定内容) :-

| | |
|------|--|
| 判定根拠 | |
|------|--|

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。
 毎年行われ、対象者は漸減しているが、それでも参列者は多い。

| | |
|------|--|
| 判定根拠 | |
|------|--|

9. 県の負担割合 判定 -
 (判定内容) :-

| | |
|------|--|
| 判定根拠 | |
|------|--|

10. O A化の可能性 判定 A
 (判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。
 慰霊祭への参列が主たる業務であるが、この種の事業はO A化にはなじまない。

| | |
|------|--|
| 判定根拠 | |
|------|--|

11. 判定結果

| | | | |
|--------------|-------------|----------|-----|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | - |
| | | (2) ニーズ | - |
| | 3. 役割分担 | (1) 官民 | - |
| | | (2) 県市町村 | - |
| | 4. 民間委託の可能性 | B | |
| 5. 事務事業の選択 | A | | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | - | |
| | 7. 貢献度 | - | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | - |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| | 9. 県の負担割合 | - | |
| 10. O A化の可能性 | A | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| 3 | 1 | | | | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | |
|--------|---|
| 評価区分 | B |
| 具体的方向性 | 2 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 2. 投入資源を現状並とし、成果を維持する。

主催者からの参加依頼を受けて参列するものであり、これの成果は従来からのままで妥当であり、今後も同様な対応を行う。

| | |
|------|--|
| 判定根拠 | |
|------|--|

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-040700-03-10

| | | | | | | | |
|-----|------------|------|----|-----|------------|-----|----|
| 事業名 | 援護業務団体補助事業 | 事業番号 | 10 | 課係名 | 福祉・援護課 援護班 | 係番号 | 03 |
|-----|------------|------|----|-----|------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 (財) 沖縄県遺族連合会、(財) 沖縄県傷痍軍人会 (財) 沖縄県慰霊奉賛会</p> <p>(2) 現状 戦傷病者や戦没者遺族に対し、処遇改善のための各種相談や指導、助言を行うほか、遺骨収集、戦跡巡拝、慰霊墓参を実施し、戦没者の慰霊及び戦傷病者、遺族の福祉の向上に努める団体を支援する</p> <p>(3) 方法 団体に対し、指導や補助金交付等の支援</p> <p>(4) 目標 援護事業の円滑な運営と事業促進を図る</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 助成 (2) 単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 戦傷病者の更正援助及び生活の援護と増進を図り、また、遺族の処遇改善等福祉向上に大きな役割を果たしている、援護業務団体に対し支援が必要</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 戦傷病者の更正援助及び生活の援護と増進を図り、また、遺族の処遇改善等福祉向上に大きな役割を果たしている、援護業務団体に対し支援が必要</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移 (単位: 千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>9,073</td> <td>8,166</td> <td>5,716</td> <td>4,001</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名: 管理運営補助事業費 日本傷痍軍人会全国大会運営費補助</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 9,073 | 8,166 | 5,716 | 4,001 | 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
|--|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 9,073 | 8,166 | 5,716 | 4,001 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 援護事業の円滑な運営と事業促進を図るため、援護業務団体に対し支援を行う</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期: 昭和47年, 終期:</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4. 自治上の区分: 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 指導 補助金の交付</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) (財) 沖縄県遺族連合会への補助金交付及び指導 (財) 沖縄県慰霊奉賛会への補助金交付及び指導 (財) 沖縄県傷痍軍人会への補助金交付及び指導</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) (財) 沖縄県遺族連合会への補助金交付及び指導 (財) 沖縄県傷痍軍人会への補助金交付及び指導</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) 戦傷病者及び遺族の福祉の向上</p> | <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) 戦傷病者及び遺族の福祉の向上に寄与</p> | <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 戦傷病者及び遺族の福祉の向上に努める</p> |

第 2 表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|----|-------|----------|
| 部課係名 | 福祉保健部 福祉・援護課 援護班 | | | | |
| 評価責任者 | 福祉・援護課 | | | 担当者 | 援護班 |
| 課番号 | 040700 | 係番号 | 03 | 電話番号 | 866-2169 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|--|--|--|
| 事務事業コード | 2006-040700-03-10 | | | | |
| 事務事業名 | 援護業務団体補助事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(1) | | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|----------------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画 施策体系 コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

| | |
|---------|------------------|
| 事務事業の区分 | 1. 内部事務事業以外の事務事業 |
|---------|------------------|

| | | | | | | |
|------------------|---------|--------|-------|-------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標A' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 9,073 | 8,166 | 5,716 | 4,001 | |
| | 人工数D | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | |
| | 人件費E | 1,326 | 1,288 | 1,288 | 1,284 | |
| | 合計C+E=F | 10,399 | 9,454 | 7,004 | 5,285 | |

| | |
|---|---|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 A | |
| (判定内容) A: 満足している。 | |
| 判定 根拠 | 各団体への補助金の補助により、遺骨収集、戦跡巡拝、慰霊墓参等を実施することにより、戦傷病者や遺族等の福祉の向上を図る。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 B | |
| (判定内容) B: 横ばい | |
| 判定 根拠 | 対象者は年々漸減しているものの全体的にはまだ多く、沖縄県社会では今後も必要な事業である。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|---------------------|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 他県水準より高い。 | | |
| 判定 根拠 | 先の大戦における本県の状況に鑑み、他県よりもこの事業に関するサービスは高いと考えている。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 B |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、官の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 戦後処理や福祉の行政であり、官（行政機関）が行うのが妥当であろう。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | 判定 - |
| (判定内容) :- | | |
| 判定 根拠 | この業務については、国、市町村というよりも、補助されている団体が地域や市町村とも関連している。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県が直接実施することが妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 全てを民間化することは困難であるが、一部可能な部分については民間への委託も行っている。 | |

| | | |
|-------------------------------|---|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 県が行う事業を当該団体が行っている戦後処理や福祉に関することへの補助事業であり、他への類似はない。 | |

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 法人の3団体への戦後慰藉、遺族等への慰藉に対する補助であり、対象に関しては特に問題はない。 | |

| | | |
|--------------------|------------------------------------|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定 根拠 | 事業の対象となる戦傷病者、遺族の福祉の向上に直接つながるものである。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。

判定根拠 当該団体への補助金の交付により、事業の効果はかなりある。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。

判定根拠 団体への投資（補助額）は毎年漸減してきているが、効果（事業の成果）はこれまでと変わらない。

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

判定根拠 県が団体への指導や育成をとおすことにより、遺族等の福祉の向上につなげる。

10. O A化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。

判定根拠 事業に関してO A化の可能な部分もあるが、直接それが事務量の軽減に結びつくかについては、どうともいえない。

11. 判定結果

| | | | |
|-----------|----------------|------------|--------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | A |
| | | (2) ニーズ | B |
| 有効性 | 2. サービス水準の他県比較 | C | |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | - |
| 効率性 | 4. 民間委託の可能性 | B | |
| | | 5. 事務事業の選択 | A |
| 6. 対象の妥当性 | A | | |
| | 7. 貢献度 | A | |
| 8. 対費用効果 | | (1) 対成果 | A 1 |
| | | (2) 対結果 | A 1 |
| 9. 県の負担割合 | A | | |
| | 10. O A化の可能性 | A | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 8 | 3 | 1 | | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|--------|
| 評価区分 | B | 具体的方向性 |
| | | 2 |

(評価区分) : B. 現状維持
 (具体的方向性) : 2. 投入資源を現状並とし、成果を維持する。

判定根拠 今後、投入資源の減は予想されるが、戦傷病者や遺族等の福祉の向上に関する業務の低下は絶対避けるべきであることから、県も継続して団体への適切な指導を行っていきたい。